



総会風景—挨拶する山田会長

山研改築になお一層の協力を

平成四年度通常総会

平成四年度の通常総会が去る五月十六日(土)午後二時、東京千代田区内神田コープビル六階で開かれた。

この通常総会には、会員二五〇一名(委任状二四一七名を含む)が出席、議案①平成三年度事業報告および収支決算、財産目録承認の件②平成四年度事業計画案および収支予算案承認の件③平成四年度除籍の件④その他について慎重審議した結果、いずれもこれを原案どおり可決、承認した。

まず議案審議に先だち小倉茂暉総務担当常務理事より四十名の物故者(後掲)の名前が読み上げられ黙禱が捧げられ、会務報告に入った。それによ

ば現在名譽会員二二名、永年会員四四七名、終身会員七八名、通常会員四七七三名、合計四九一七名である。定款二十九条により議長に選出された山田二郎会長は議事に入る前に冒頭大要次のような挨拶を行った。

「昨年はナムチャバルワ登山、HAT-Jへの協力、山研の改築と三つの大きな事業があり、一時はどうなることかと思つたが、幸い皆さまの協力によりどうやら年が越せましたことを感謝致します。ただ第一次のナムチャバルワでは不幸にして大西隊員の遭難事故があり大いに反省しています、また天候も不安定でありましたために頂上直下のロックバンドは越えなすに至り天候が急変して退却のやむなきに至りました。今年はまだに日中国交正常化二十周年に当たりますし、それに入山許可が二年限りでございますので、再

がバックアップして昨春秋、国際会議が成功裡に終わりましたが、今後の運営が問題となるところであります。それから山研につきましては既に地鎮祭も終わり、関係諸官庁への許可も大半が終了し、本年中に完成の予定ですので新山研に大いに期待していただきます。

問題は資金繰りであります。幸いにしてナムチャバルワはほぼ賄える見通しであります、山研につきましては会員募金を主体にしておりまして、まだ二四〇〇〇五〇〇万円資金ショートしておりますので、広く多くの方々にご協力、お力添えをいただきたい。会員につきましては昨年の四七三〇名から四九一七名に増加致しました。しかし、他方死亡、退会、除籍者もかなりありますので執行部としてはこれらの人々の声も謙虚に耳を傾けて行き



1992年(平成四年)
7月号(No. 566)
社団法人 日本山岳会
The Japanese Alpine Club

定価一部 150 円

目次

- 平成四年度通常総会.....(1)
- 海外の山.....(2)
- 「烈風への挑戦」
- 総会資料.....(3)
- ナムチャバルワ第三信.....(10)
- 新支部長紹介.....(10)
- HETによるヒマラヤ・コード.....(11)
- 東西南北.....(12)
- 「アンタークテックウォーク南極点探検隊より」「短歌 雨の磐梯山」
- 図書紹介.....(12)
- 報告.....(13)
- 「秩父宮記念学術賞 授賞記念講演会開催さる」「高柄山さくらハイク」「三水会四月現地集会」「支部長選出について」
- 会務報告.....(15)
- 五月定例理事会、支部長会議、ルーム日誌、会員異動、山研・ナムチャ合同募金応募状況、新入会員(復活)、住所・住居表示変更
- お知らせ.....(17)

▶日本山岳会事務取扱時間
月、火、水、木、土、日 10時~20時
金、日 13時~20時
日曜・祭日は休み
▶図書室開室時間
日曜・祭日・月曜を除く毎日
13時~20時
▶ルーム夏休み
8/10(月)~8/16(日)

きましては四団体がバックアップして昨春秋、国際会議が成功裡に終わりましたが、今後の運営が問題となるところであります。それから山研につきましては既に地鎮祭も終わり、関係諸官庁への許可も大半が終了し、本年中に完成の予定ですので新山研に大いに期待していただきます。

お知らせテロップ電話
3234 六六五九

たい。

なお、社会的な問題としては遭難事故の多発であります。とくに中高年登山者の遭難が目立ち、その防止策が大きな課題であります。また自然保護・環境問題についても同様であります。これらの問題は日本山岳会としても避けて通れないことでありますので、今後とも継続して取り組んでいきたい。」

第一号議案、平成三年度事業報告(別掲)は小倉茂暉常務理事が行った。それによれば平成三年度の主な事業は通常総会、岐阜支部二十周年、全国支部集会(富山)、女性懇談会全国集会(秋田)、ナムチャバルワ登山、同支援隊、山研改築、HAT-J協力(昭和女子大)、自然保護全国大会(新潟・新発田)、年次晩餐会その他多くのシンポジウム、講習会等が行われた。

収支決算、財産目録(別表)については大倉昌身財務担当常務理事が説明した。それによると同年度の収支決算はまず収入は会費の高い納入率と金利の高水準、各種補助金(寄付(大西家)などに支えられ予算額五七二万円に對して一億一九万四四六円となった。

これに對して支出面については出版費、支部関係費、山研改築募金経費、雑費(交際費的な費用、例えばHAT

以下九頁に続く

海外の山

烈風への挑戦

六月末、アラスカのマッキンリー(六一九四呎)から、思ってもみなかった報が届いた。

近くの火山が爆発、カヒルトナ氷河のセスナ機ランディングポイントにいる百三十人の登山者が、一時孤立した、という。

マッキンリーでは、九〇年以来「烈風」をテーマに、日本山岳会科学委員会会の登山家たちが興味ある調査を続けている。今年には「第三次気象観測機器設置登山隊」が現地入りしており、彼らもこの火山爆発を目撃したことだろう。

「私が高山での気象観測を思い立ったのは、一九八二年十二月にエヴェレスト登頂後消息を絶った加藤保男、小林利明両氏の遭難の時で、やはり『烈風』が問題視されたからです」と、隊長の大蔵喜福は、「第三次登山計画書」で言っている。

冬のエベレストに登頂後、小林と合流した加藤が「頑張るぞ」の無線交信を最後に行方を絶った時、二人は強烈な風で稜線から飛ばされたのではないかと、この見方が有力だった。

その「烈風」の研究に、マッキンリーが選ばれたのは、八四年二月の植村直己、その五年後八九年二月の山田昇、小松幸三、三枝照雄、とこの北米大陸最高峰で相次いだ登山家の悲報の故である。

九〇年六月、第一次隊は、デナリパス上部、標高五七一〇呎の岩峰に、自動観測機器を設置した。デナリ国立

公園から一年の設置許可を取得した上でのことだ。

翌九一年六月末、現地に到着した二次隊は、センサーの支柱がものの見事に倒壊しているのを見せつけられ、呆然とする。幸い、記録装置は作動していたため、おおよその状況はつかむことができた。

記録によると、風速計の倒壊は九〇年十一月二十二日、その時点までの最大風速は、秒速六十三呎だった。観測機器を支えていた二ヶのワイヤーは「超大型台風並の突風があらゆる方向から衝撃荷重をあたえ、疲労破壊で破断にいたった」(同計画書)という。

気温については、マイナス五〇度以下に下がった日が、九〇年十一月から翌年二月にかけて二十八日間あり、うち五割の十四日間が十一月に集中、最低気温は二月三日のマイナス六〇度だった。

問題の烈風だが、倒壊前まで秒速五〇呎以上の風が吹いた日が、十数回、それも冬ではない六月から九月にかけて集中していたことが報告されている。ただし、倒壊前もセンサーの調子が悪く、詳しくは今後の計測に待たねばならない、という。

三次隊は、前回の失敗を反省、今回はワイヤーを倍以上の太さのものにするなど、設置方法を改良し、「五年間継続観測」したい、としているが、現地の理解もあるとのことだし、おそらく順調に終了したことだろう。

山で、一瞬の強風に転がされた体験を持つ登山者は少なくない。寒さと並んで、風は山の脅威の重大な要素だが、登る側からの科学的な究明は、まだ未知の領域に近い。日本を代表する登山家たちが帰らなかった山での、地道な研究に期待する。

(江本嘉伸)

- 3月14日 新入会員オリエンテーション 本会
 3月14～16日 山岳スキー講習会 (指導) 会津駒ヶ岳
 (ロ) 研究会
 7月13～14日 第11回登山医学研究会
 北里研究所北里本館
 高齢者登山について 小林太刀夫
 多様化する登山に対応する医療はいかにあ
 るべきか 大森薫雄
- (ハ) 講演会、シンポジウム
 4月6日 シンポジウム「山小屋の尿処理」
 永嶋正信氏他 青山学院大学
 7月5日 シンポジウム「山における雷の問題」
 北川信一郎氏 青山学院大学
 11月22日 講演会「飯豊の高山植物」 小荒井実氏 本会
 2月6日 講演会「マッキンリー気象観測報告」
 大蔵喜福氏 本会
2. 登山施設の改善, その他登山のための適切な事業
 ・上高地山岳研究所の開設及び改築計画の検討, 解体
 4月～10月
 ・山に関する貴重なフィルム, スライド, テープ, アルバム等の
 複製および貴重な資料の収集, 整備, 管理
3. 山岳遭難の予防とその対策に関する企画および指導
 2月22～23日 中高龄登山対策全国大会
 水道橋グリーンホテル
4. 自然保護活動の推進
 6月2日～9日 全国一斉清掃登山の実施(HAT-J)に協力
 各支部
 6月29～30日 自然保護全国集会
 新発田市及び飯豊山麓・湯の平温泉
 9月1日 自然観察山行 玉原湿原
 11月2～3日 自然環境保全のための現地観察 稲包山
 3月1日 自然観察山行 奥武蔵
 JACの自然保護活動の歴史の調査, 編集
5. 機関誌などの発行
 ・「山岳」第86年(1991年)号の発行
 ・「山岳」総索引の発行
 ・会報「山」第551号～第562号の発行
 ・会報「山」501～550号総目録の発行
 ・「登山医学」第11巻の発行に協力
6. 国内および外国山岳団体との連絡、情報交換
 ・国内関係団体(日山協, 都岳連, その他)との密接な連絡
 ・海外登山団体との機関誌および情報の交換
 11月9～10日 山岳環境保護国際シンポジウム開催に協力
 昭和女子大学
7. 海外登山
 ・ムスターグアタ登山隊の派遣(青年部) 7月21日～8月26日
 ・日中合同ナムチャバルワ峰登山隊の派遣 9月～12月
 ・ナムチャバルワ・トレッキングの実施 10月20日～11月5日
8. その他目的を達成するために必要な事業
 ・山岳図書の新刊をはかる
 ・その他目的を達成するために必要な事業を行う

日本山岳会 平成3年度事業報告

(3.4.1～4.3.31)

1. 登山の指導と奨励に必要な集会, 研究会, 講習会および展覧会
 の開催
 (イ) 集会
 4月13～14日 スケッチ山行(集会) 乗鞍岳
 4月14日 新入会員歓迎さくらハイク(総務) 岩殿山
 4月19～21日 スキー講習会(指導、女性懇) 八甲田
 5月2～6日 ゴールデンウィーク合宿(青年部) 剣岳
 5月18日 支部長会議 東京・コープビル
 5月18日 支部事務局担当者会議 “
 5月18日 総会 “
 5月25～26日 岐阜支部創立20周年記念山行 恵那山
 6月1～2日 第45回ウェストン祭 上高地
 6月7～9日 第15回若葉会山行(集会, 若手支部)
 岩手・七時雨山
 6月8～9日 初夏合宿(青年部) 谷川岳
 6月15～16日 小川山岩登り集会(学生部) 小川山
 6月22日 富士山合宿(青年部) 富士山
 6月24日 ビデオ映写会I 本会
 7月20～21日 探索山行・湿原と植物(科学) 駒止湿原
 9月28～29日 全国支部集会 立山・富山支部
 10月5～6日 スケッチ山行 上高地
 10月5～6日 初級岩登り講習会(指導) 小川山
 10月5～6日 秋合宿(青年部) 小川山
 10月12～13日 女性懇談会全国集会 秋田・八森町
 10月15日 ムスターグアタ・ブロードピーク報告会 本会
 10月21日 新入会員懇談会 本会
 10月23日 「山を語る」講演会 広島三朗氏 本会
 10月27日 ビデオ撮影会 西沢渓谷
 11月6日 早大トリポール・拓大スクーニャン報告会
 (青年部) 本会
 11月10日 第28回マラソン大会(学生部) 皇居周辺
 11月28日 冬山講習会「防げるか冬山の孤立遭難」 本会
 12月5日 立正大シヤパンマ報告会(青年部) 本会
 12月5日 積雪期剣岳ハッ峰研究会(学生部) 本会
 12月7日 支部長会議 新高輪プリンスホテル
 12月7日 年次晩餐会 新高輪プリンスホテル
 12月15日 忘年山行 鹿留山
 12月21日 ナムチャバルワ登山検討会及び報告会
 番町グリーンパレス
 1月8日 千葉大ツェダカン報告会(青年部) 本会
 1月11～13日 スキー懇親会 八方尾根
 2月8日 ナムチャバルワ登山総括 本会
 2月14日 第20回「山岳史懇談会」 橋 真琴氏 本会
 2月18日 ビデオ映写会II 本会
 3月3日 第23回「山岳図書を語る夕べ」
 薬師義美氏 本会
 3月3日 第29回「この一本展」 本会
 3月8日 南極ビンソンマシフ峰報告会 本会
 3月7～9日 戸隠スキー集会(婦人懇談会) 戸隠

収支計算書

平成3年4月1日から平成4年3月31日まで

旅費・交通費	1,500,000	1,786,300	△286,300
通信・運搬費	1,200,000	1,192,814	7,186
火災保険料	100,000	78,760	21,240
修繕費	2,200,000	1,515,580	684,420 (注)3
租税公課	600,000	446,600	153,400
光熱水料費	450,000	409,470	40,530
電話料	320,000	394,226	△74,226
会議費	200,000	333,684	△133,684
什器備品費	200,000	558,769	△358,769
振替手数料	300,000	270,540	29,460
支部運営費	3,500,000	3,276,500	223,500
福利厚生費	160,000	149,035	10,965
事務所管理費	750,000	712,341	37,659
その他の管理費	600,000	403,094	196,906
負担金	0	75,000	△75,000
雑費	600,000	1,292,178	△692,178
管理費計	22,080,000	23,434,310	△1,354,310
3. 固定資産取得支出			
什器備品購入支出	230,000	0	230,000
建設仮勘定支出	3,500,000	3,500,000	0 (注)4
固定資産取得支出計	3,730,000	3,500,000	230,000
4. 特定預金支出			
海外登山基金支出	0	1,000,000	△1,000,000 (注)5
図書出版研究基金支出	0	260,000	△260,000
長期計画積立金支出	3,000,000	5,410,000	△2,410,000 (注)6
登山特別基金支出	0	1,140,000	△1,140,000
終身会費積立金支出	0	520,000	△520,000
特定預金支出計	3,000,000	8,330,000	△5,330,000
5. 予備費			
予備費	3,800,000	0	3,800,000
当期支出合計(C)	61,889,000	102,026,497	△40,137,497
当期収支差額(A)-(C)	△4,769,000	△1,836,051	△2,932,949
次期繰越収支差額(B)-(C)	26,962,120	29,895,069	△2,932,949

- (注) 1. 上高地山研改築募経費 ¥ 1,716,430.-
 (注) 2. ナムチャバルワ登山隊へ支出 ¥ 34,000,000.-
 (注) 3. 上高地山研解体費 ¥ 1,493,500.-
 (注) 4. 上高地山研設計料 ¥ 3,500,000.-
 (注) 5. 海外登山基金支出 ¥ 1,000,000.- (同基金に大西家寄付金積み増し)
 (注) 6. 長期計画積立金支出 ¥ 5,410,000.- (同積立金積み増し ¥ 4,000,000.-)

正味財産増減計算書

平成3年3月31日～4年3月31日

科目	金額	
1. 増加の部		
1. 資産増加額		
図書出版研究基金	260,000	
長期計画積立金	5,410,000	
登山特別基金	1,140,000	
海外登山基金	1,000,000	
終身会費積立金	520,000	
建設仮勘定	3,500,000	
棚卸資産	67,709	11,897,709
増加額計		11,897,709
1. 減少の部		
1. 資産減少額		
当期収支差額	1,836,051	

科目	予算額	決算額	差異	備考
I. 収入の部				
1. 基本財産運用収入				
基本財産利息収入	400,000	562,820	△162,820	
2. 会費・入金収入				
入会金収入	3,000,000	4,005,000	△1,005,000	
復活会費収入	0	255,000	△255,000	
通常会費収入	41,000,000	43,379,000	△2,379,000	
終身会費収入	0	520,000	△520,000	
会費・入金収入計	44,000,000	48,159,000	△4,159,000	
3. 事業収入				
広告料収入	1,500,000	1,650,151	△150,151	
印税収入	20,000	16,917	3,083	
刊行物売上収入	800,000	375,020	424,980	
その他事業収入	2,500,000	2,625,300	△125,300	
山研使用料収入	1,500,000	1,392,134	107,866	
事業収入計	6,320,000	6,059,522	260,478	
4. 補助金等収入				
補助金収入	0	33,000,000	△33,000,000 (注)1	
5. 寄付金収入				
寄付金収入	0	1,000,000	△1,000,000 (注)2	
6. 雑収入				
受取利息	6,000,000	10,785,790	△4,785,790	
雑収入	400,000	623,314	△223,314	
雑収入計	6,400,000	11,409,104	△5,009,104	
7. 特定預金取崩収入				
図書出版基金取崩収入	0	0	0	
当期収入合計(A)	57,120,000	100,190,446	△43,070,446	
前期繰越収入差額	31,731,120	31,731,120	0	
収入合計(B)	88,851,120	131,921,566	△43,070,446	

- (注) 1. ナムチャバルワ登山に対する
 「スポーツ振興基金」助成金 ¥ 30,000,000.-
 「放送文化基金 後期分」助成援助金 ¥ 2,000,000.-
 (社)日本山岳会中・青年登山対策全国大会に対する
 「SSF スポーツエイド」助成金 ¥ 1,000,000.-
 (注) 2. 故 大西宏ナムチャバルワ登山隊員御遺族から
 ¥ 1,000,000.-

科目	予算額	決算額	差異	備考
II. 支出の部				
1. 事業費				
出版費	10,906,000	11,511,909	△605,909	
図書管理費	950,000	869,119	80,881	
調査研究費	865,000	922,841	△57,841	
指導費	868,000	837,906	30,094	
支部関係費	3,500,000	4,393,223	△893,223	
海外諸関係費	200,000	239,930	△39,930	
山岳研究所運営費	1,990,000	3,735,507	△1,745,507 (注)1	
海外登山補助金	3,500,000	3,500,000	0	
その他事業費	2,500,000	36,784,107	△34,284,107 (注)2	
印刷・製本費	500,000	434,109	65,891	
通信運搬費	3,500,000	3,533,536	△33,536	
事業費計	29,279,000	66,762,187	△37,483,187	
2. 運営管理費				
給料・手当	8,000,000	8,229,200	△229,200	
文具・消耗品費	200,000	168,668	31,332	
印刷・製本費	1,200,000	2,141,551	△941,551	

退職給与引当金は期末退職給与の要支給額の100%に相当する額を計上している。

(4) 資金の範囲について

資金の範囲には、現金預金、未収会費、前受会費及び預り金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記3に記載のとおりである。

2. 基本財産の増減及びその残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加	当期減少	当期末残高
貸付信託 (三井)	2,380,000	0	0	2,380,000
〃 (日本)	420,000	0	0	420,000
〃 (中央)	5,200,000	0	0	5,200,000
合 計 (基本金)	8,000,000	0	0	8,000,000

3. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期末残高	備 考
現金預金	22,545,457	27,589,819	
未収会費	3,132,000	2,698,000	
仮払金	6,544,953	0	
合 計	32,222,410	30,287,819	
前受会費	147,000	189,000	
預り金	344,290	203,750	
合 計	491,290	392,750	
次期繰越収支差額	31,731,120	29,895,069	

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建 物	26,423,000	0	26,423,000
什 器 備 品	5,123,796	0	5,123,796
合 計	31,546,796	0	31,546,796

財 産 目 録

平成4年3月31日現在

科 目	金 額		
[1] 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
現金 現金手許有高	143,463		
振替預金			
東京地方預金局	420,168		
普通預金			
協和埼玉銀行市ヶ谷支店	3,917,327		
三菱銀行市ヶ谷支店	98,115		
三和銀行本郷支店	8,122		
中央信託銀行本店	1,713		
三井信託銀行新宿西口支店	16		
日本信託銀行本店	895		
定期預金			
協和埼玉銀行市ヶ谷支店	23,000,000		
未収会費 294名分	2,698,000		
棚卸資産注1	1,876,539		
流動資産合計		32,164,358	
2. 固定資産			
(1) 基本財産			

建物	9,583,808		
什器・備品	458,200	11,878,059	
減少額計			11,878,059
当期正味財産増加額			19,650
前期繰越正味財産額			246,175,924
期末正味財産合計額			246,195,574

貸 借 対 照 表

平成4年3月31日現在

科 目	金 額		
[1] 資産の部			
1. 流動資産			
現金	143,463		
振替貯金	420,168		
普通預金	4,026,188		
定期預金	23,000,000		
未収会費	2,698,000		
棚卸資産	1,876,539		
流動資産合計		32,164,358	
2. 固定資産			
基本財産			
貸付信託	8,000,000		
基本財産合計	8,000,000		
その他固定資産			
土地	46,297,170		
建物	26,423,000		
建設仮勘定	3,500,000		
什器備品	5,123,796		
図書出版研究基金	4,450,000		
長期計画積立金	26,340,000		
登山特別基金	17,480,000		
海外登山基金	71,000,000		
終身会費積立金	5,810,000		
退職給与積立金	3,300,000		
その他固定資産合計	209,723,966		
固定資産合計		217,723,966	
資産合計			249,888,324
[2] 負債の部			
1. 流動負債			
前受会費	189,000		
預り金	203,750		
流動負債合計		392,750	
2. 固定負債			
退職給与引当金	3,300,000		
固定負債合計		3,300,000	
負債合計			3,692,750
[3] 正味財産の部			
正味財産			246,195,574
(うち基本金)			8,000,000
(当期正味財産増加額)			19,650
負債及び正味財産合計			249,888,324

計算書類に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価規準及び評価方法について
基本財産の貸付信託は、総平均法による原価基準を採用している。
- (2) 固定資産の減価償却について
建物及び什器備品の減価償却は行っていない。
- (3) 引当金の計上基準について

林小班 構造 鉄筋コンクリート造 (一部木造) 1 棟	0
100.69 m ²	
合 計	72,720,170

* 上高地山研改築のため建物解体 除却額 ¥ 9,583,808.-

2. 什器備品

品 名	取 得 年 月 日	取得価格	所在
大テーブル (2 台セット) チーク材 750×1200×720	48. 7.31	164,200	上高地
ソファセット, チーク材レザー張	48. 7.31	178,000	上高地
書倉内移動書架一式, コンパックル 応接セット一式, 張布イス, テーブル XLE-30	53. 2.10	1,500,000	図書室
閲覧用テーブル (2 台) 木製	53. 8. 2	218,000	談話室
ライティングビューロー, 木製	53. 9.28	250,000	図書室
テレビ, シャープ CT-2600 (寄贈品)	54. 6.23	280,000	図書室
ビデオカセットレコーダー, シャープ VC-7000	55. 6. 4	80,000	談話室
55.12.27	116,000	談話室	
フィルム収納キャビネット (スチール 製品)	56. 8. 8	254,000	図書室
図書カード容器, 木製 3 段	56. 9.12	200,000	図書室
書 棚, 木製 2 段	56.12.22	500,000	図書室
16 mm 映写機 16-CL (MO)	61. 5.13	156,000	図書室
MS パウチ H-140	61.10.17	95,000	事務所
東芝パーソナルワープロ WJ-R 70 F II	62. 3.12	89,000	事務所
木製書架ガラス戸付 (2 台)	62. 9.24	700,000	図書室
ソビエト製チタン酸素ボンベ一本	2. 7.12	96,114	事務所
シャープ液晶ビジョン一式	2. 7.19	587,932	事務所
ダンロップテント V 600, V 600 S 一式	2. 3.22	117,420	事務所
合 計		5,123,796	

財産目録記載外のその他物品リスト (主として受贈品)

1. 図 書

種 類	摘 要	冊 数
和 書	平成3年度 受入冊数	141 冊
洋 書	平成3年度 受入冊数	58 冊
		8626 冊
		2998 冊

2. 絵 画

題 名	種類, 号数	作者名	掲載, 保管場所
白 馬 岳	油 A-50	中村清太郎	日本民族資料館
富 士 山 麓	油 A-25	茨木猪之吉	日本民族資料館
田代沼の白樺	油変形-6	中村清太郎	談 話 室
群 猿	墨 絵	石井 鶴三	図 書 室
伊 豆 半 島	油 - 10	茨木猪之吉	松本アルプス山岳館
針 の 木 峠	油 - 10	茨木猪之吉	図 書 室
徳本峠から穂高連峰	墨 絵	石田 吟松	松本アルプス山岳館
初冬の両神山	油 - 10	茨木猪之吉	図 書 室
鳥 (カット原画)	墨 絵	石井 鶴三	図 書 室
メールドグラス	エッチング		図 書 室
モンブラン	エッチング		松本アルプス山岳館
カンチュンジュンガ	エッチング	シュラーギ ントワイト	図 書 室
ユングラウ	油	山里 寿男	集 会 室
濁沢より北穂高	水彩 -6	山里 寿男	松本アルプス山岳館
槍ヶ岳初夏	油 - 10	中村清太郎	集 会 室
カンチュンジュンガ	パステル	矢崎千代二	談 話 室
北穂高滝谷	油 - 25	足立源一郎	談 話 室
或朝の槍ヶ岳	油 - 25	足立源一郎	集 会 室

貸付信託			
三井信託銀行本店	2,380,000		
日本信託銀行本店	420,000		
中央信託銀行本店	5,200,000		
基本財産合計	8,000,000		
(2) その他固定資産注2			
土 地 57.9148 m ²	46,297,170		
建 物 158.54 m ²	26,423,000		
建設仮勘定	3,500,000		
什器・備品	5,123,796		
図書出版研究基金 (定期 預金・協和埼玉市ヶ谷)	4,450,000		
長期計画積立金 (定期 預金・三菱市ヶ谷)	22,340,000		
長期計画積立金 (定期 預金・協和埼玉市ヶ谷)	4,000,000		
登山特別基金 (定期預 金・三菱市ヶ谷)	17,480,000		
海外登山基金 (定期預 金・協和埼玉市ヶ谷)	71,000,000		
終身会費立 (定期預金 ・協和埼玉市ヶ谷)	5,810,000		
退職給与積立金 (定期 預金・協和埼玉市ヶ谷)	3,300,000		
その他固定資産 合計	209,723,966		
固定資産合計		217,723,966	
資産合計			249,888,324
[2] 負債の部			
1. 流動負債			
前受会費 16 名分	189,000		
預り金 職員に対する 源泉所得税他	203,750		
流動負債合計		392,750	
2. 固定負債			
退職給与引当金	3,300,000		
固定負債合計		3,300,000	
負債合計			3,692,750
正味財産			246,195,574

注 1) 棚卸資産内訳

種 類	摘 要	金 額
刊 行 物	山岳・山岳覆刻版等	1,025,720
服飾品・その他	クラブタイ タイ止等	850,819
合 計		1,876,539

注 2) その他固定資産内訳

1. 建物および土地

A 事務所および図書室	金 額 (円)
場所 東京都千代田区四番町 5 番 4	
構造 鉄筋コンクリート造, 陸屋根, 地下 1 階付 5 階建	
(事務所)区分所有建物 1 階部分 103.32 m ² 宅地特分 1,124.56 m ² × 339/10,000 =38.122584 m ²	72,720,170
(図書室)区分所有建物 1 階部分 55.22 m ² 宅地特分 1,124.56 m ² × 176/10,000 =19.792256 m ²	
計 158.54 m ² 宅地特分 57.91484 m ²	
B 上高地山岳研究所	
場所 長野県南安曇郡安曇村上高地国有林 114 い	

- ・新入会員懇談会 未定 10月中旬
- ・秋の現地小集会 未定 10月
- ・初級岩登り講習会(集会,指導) 未定 10月
- ・秋合宿(青年部) 未定 10月中旬
- ・秋山集会(学生部) 未定 10月中旬
- ・支部事務局担当者会議 英彦山 10月30日
- ・全国支部懇談会 福岡支部 英彦山 10月31~11月1日
- ・第23回「山岳図書交換会」 本会 未定
- ・宮崎ウェストン祭 宮崎支部 11月3日
- ・第29回マラソン大会(学生部) 皇居周辺 11月上旬
- ・秋山山行(一泊) 未定 11月
- ・フリークライミングコンペⅡ 立教大学 11月中旬
- ・冬山講習会(青年部) 本会 11月下旬
- ・冬山講習会(学生部) 本会 12月上旬
- ・支部長会議 新高輪プリンスH. 12月5日
- ・年次晩餐会 新高輪プリンスH. 12月5日
- ・忘年山行 未定 12月
- ・スキー懇親会 八方尾根 1月
- ・冬山報告会(学生部) 本会 1月中旬
- ・報告会・講演会(青年部) 1月下旬
- ・氷雪スキー合宿(青年部) 未定 2月中旬
- ・氷雪スキー合宿(学生部) 未定 2月
- ・雪の現地小集会 未定 2月
- ・映写会Ⅱ 本会 2月
- ・中高年登山対策全国大会・支部事務局担当者会議 未定 2月下旬
- ・第21回「山岳史懇談会」 本会 未定
- ・第24回「山岳図書を語る夕べ」 本会 未定
- ・第30回「この一本展」 本会 未定
- ・山岳スキー講習会(3回)(指導) 未定 3月~4月
- ・新入会員オリエンテーション 本会 3月14日
- (ロ) 研究会
 - ・エヴェレスト登山の問題点(高所登山研究委員会) 3月
 - ・第12回登山医学研究会 筑波大学大会館ホール 7月11,12日
- (ハ) 講演会, シンポジウム
 - ・ミニ講演会「登山におけるトレーニング効果」 未定
 - ・マッキンレーにおける気象調査について 4月中旬
 - ・海外登山遭難報告, 検証会 本会 5月
 - ・シンポジウム「気象」 未定
 - ・マッキンレーにおける気象調査について 7月中旬
 - ・シンポジウム「山の衣料」 未定
 - ・シンポジウム「山の自然保護を考える」 9月
 - ・「冬山遭難防止の為に」講演会 本会 11月
- 2. 登山施設の改善, その他登山のための適切な事業
 - ・上高地山岳研究所の改築 4月~10月
 - ・アラスカ・マッキンリー山における気象観測 6月初旬
 - ・上高地山岳研究所における自然エネルギー利用
 - ・山に関する貴重なフィルム, スライド, テープ, アルバム等の複製および貴重な資料の収集, 整備, 管理
- 3. 山岳遭難の予防とその対策に関する企画および指導
 - ・遭難救助研究会(学生部) 未定 12月
 - ・中高年の健康管理と遭難予防セミナー 未定

北穂高岳主峰	油	- 25	足立源一郎	談話室
槍ヶ岳	油	-P 8	足立源一郎	集会室
タンポポエの僧院	水彩	-4	清野恒	松本アルプス山岳館
シェルパニの親子	水彩	-5	清野恒	松本アルプス山岳館
冬の山(清太山)	墨	絵	近藤茂吉	松本アルプス山岳館
プカヒルカ・ノルテ	水彩		渡辺九郎	事務室
梓川秋色	油	- 12	後藤三男	談話室

・他の絵画, 写真, 省略

3. フィルム「マイナスに立つ」他103点

監査報告

社団法人日本山岳会平成3年度の収支計算書, 正味財産増減計算書, 貸借対照表および財産目録を監査し, 正確妥当なことを認めます。

平成4年4月15日

社団法人 日本山岳会 監事 飯野 亨
監事 中島 伊平

日本山岳会 平成4年度事業計画(案)

(4.4.1~5.3.31)

1. 登山の指導と奨励に必要な集会, 研究会, 講習会および展覧会の開催
 - (イ) 集会
 - ・海外登山報告会 本会 4月中旬
 - ・チョモランマ報告会・貫田宗男氏 本会 4月
 - ・新入会員歓迎さくらハイク(総務) 高柄山 4月19日
 - ・「山を読む」講演会・小嶋尚氏 本会 4月22日
 - ・ゴールデンウィーク合宿(青年部) 未定 4月下旬~5月上旬
 - ・日帰り山行(女性懇談会) 東京近郊 5月24日
 - ・フリークライミング講習会 東京近郊 5月中旬
 - ・支部長会議 東京・コープビル 5月16日
 - ・通常総会 " 5月16日
 - ・木暮祭 山梨支部 金山平 5月16日
 - ・フリークライミングコンペⅠ 立教大学 5月下旬
 - ・ビデオ映写会Ⅰ 本会 未定
 - ・第16回若葉会山行(集会, 石川支部) 白山・千振尾根 5月30~31日
 - ・初夏合宿(青年部) 小川山 6月初旬
 - ・初夏集会(学生部) 小川山 6月初旬
 - ・第46回ウェストン祭 信濃支部 上高地 6月7日
 - ・映写会Ⅰ 本会 6月2日
 - ・撮影会Ⅰ 未定 6月
 - ・初夏合宿(青年部) 谷川岳 6月下旬
 - ・報告講演会(プレモンスーン登山隊) (青年部) 本会 7月上旬
 - ・探索山行(科学) 未定 7月上旬
 - ・撮影技術に関する講演会 本会 7月
 - ・懇親山行(女性懇談会) 東京近郊 7月
 - ・女性懇談会全国集会 御岳山 8月29~30日
 - ・報告講演会(アムネマチン他) (青年部・学生部) 本会 10月上旬
 - ・ガッシュブルム等登山報告会(高所登山委員会)
 - ・撮影会Ⅱ 未定 10月

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備考
I. 支出の部				
1. 事業費				
出版費	11,380,000	10,906,000	474,000	
図書費	800,000	950,000	△150,000	
調査研究費	1,236,000	865,000	371,000	
指導費	932,000	868,000	64,000	
支部関係費	3,500,000	3,500,000	0	
海外諸関係費	250,000	200,000	50,000	
山岳研究所運営費	1,177,000	1,990,000	△813,000	
海外登山補助費	3,500,000	3,500,000	0	
その他事業費	2,500,000	2,500,000	0	
印刷・製本費	500,000	500,000	0	
通信運搬費	3,600,000	3,500,000	100,000	
事業費計	29,375,000	29,279,000	96,000	
2. 管理費				
給料・手当	8,500,000	8,000,000	500,000	
文具・消耗品費	200,000	200,000	0	
印刷・製本費	1,500,000	1,200,000	300,000	
旅費・交通費	1,500,000	1,500,000	0	
通信・運搬費	1,200,000	1,200,000	0	
火災保険料	100,000	100,000	0	
修繕費	200,000	2,200,000	△2,000,000	
租税公課	600,000	600,000	0	
光熱水料費	450,000	450,000	0	
電話料	350,000	320,000	30,000	
会議費	200,000	200,000	0	
什器備品費	350,000	200,000	150,000	
振替手数料	300,000	300,000	0	
支部運営費	3,500,000	3,500,000	0	
福利厚生費	160,000	160,000	0	
事務所管理費	700,000	750,000	△50,000	
その他の管理費	500,000	600,000	△100,000	
負担金	0	0	0	
雑費	600,000	600,000	0	
管理費計	20,910,000	22,080,000	△1,170,000	
3. 固定資産取得支出				
什器備品購入支出	250,000	230,000	20,000	
建設仮勘定支出	0	3,500,000	△3,500,000	
固定資産取得支出計	250,000	3,730,000	△3,480,000	
4. 特定預金支出				
長期計画積立金支出	3,000,000	3,000,000	0	
5. 予備費				
予備費	1,500,000	3,800,000	△2,300,000	
当期支出合計(C)	55,035,000	61,889,000	△6,854,000	
当期収支差額(A)-(C)	35,000	△4,769,000	△4,734,000	
次期繰越収支差額(B)-(C)	29,930,069	26,962,120	2,967,949	

4. 自然保護活動の推進

- ・自然保護全国集会 滋賀県朽木村・朝日の森 5月23～24日
- ・自然観察山行 未定 7月
- ・自然観察山行 未定 3月
- ・自然環境保全のための現地視察 適宜実施
- ・自然保護に関する講演会 未定 2回

5. 機関誌などの発行

- ・「山岳」第87年(1992年)号の発行
- ・会報「山」第563号～第574号の発行
- ・「登山医学」第12巻の発行に協力
- ・会員名簿の発行

6. 国内および外国山岳団体との連絡、情報交換

- ・国内関係団体(日山協, 都岳連, その他)との密接な連絡
- ・海外登山団体との機関誌および情報の交換

7. 海外登山

- ・アムネマチン登山隊の派遣(青年部) 7月～8月
- ・中国青海省崑崙山脈国際キャンプへ参加 8月～9月
- ・日中合同ナムチャバルワ峰登山隊の派遣 9月～12月

8. その他目的を達成するために必要な事業

- ・山岳図書の拡充をはかる
- ・その他目的を達成するために必要な事業を行う

収 支 予 算 書 (案)

平成4年4月1日から平成5年3月31日まで

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備考
I. 収入の部				
1. 基本財産運用収入				
基本財産 利息収入	400,000	400,000	0	
2. 会費・入会金収入				
入会金収入	3,450,000	3,000,000	450,000	
通常会費 収入	41,000,000	41,000,000	0	
終身会費 収入	0	0	0	
会費・入会金収入計	44,450,000	44,000,000	450,000	
3. 事業収入				
広告料収入	1,500,000	1,500,000	0	
印税収入	20,000	20,000	0	
刊行物売上収入	800,000	800,000	0	
その他事業収入	2,500,000	2,500,000	0	
山研使用料収入	0	1,500,000	△1,500,000	
事業収入 計	4,820,000	6,320,000	△1,500,000	
4. 補助金等収入				
補助金収入	0	0	0	
5. 寄付金収入				
寄付金収入	0	0	0	
6. 雑収入				
受取利息	5,000,000	6,000,000	△1,000,000	
雑収入	400,000	400,000	0	
雑収入 計	5,400,000	6,400,000	△1,000,000	
7. 特定預金取崩収入				
図書出版基取崩収入	0	0	0	
当期収入合計(A)	55,070,000	57,120,000	△2,050,000	
前期繰越収支差額	29,895,069	31,731,120	△1,836,051	
収入合計(B)	84,965,069	88,851,120	△3,886,051	

除籍予定者(1993年3月31日)

会員番号	会員氏名	会員番号	会員氏名	会員番号	会員氏名	会員番号	会員氏名
01867	北島 隆	06925	伊藤 寿雄	09196	山之内 秀一郎	10391	藤本 正和
02374	小早川又一	07175	西山 邦一	09211	平尾 年麗	10442	松浦 宏之
04875	村田 弘英	07687	種谷 由美	09509	前野 十行	10471	神園 正美
05477	楠目 高明	08456	藤井 弘一	09530	水越 裕哉	10497	小本 國彦
05889	花井 俊彦	08542	大野 幸雄	09541	横山 皖一	10504	木田 伸良
06006	吉田 宏	08811	小澤 由拓	09542	大川 英作	10543	森田 幹男
06430	白木 正俊	08921	西川 恵	09677	片岡 理智	10590	田谷 勝
06674	三浦 俊則	09116	阿部 翼	10010	三好 雅彦		
06765	大谷 貞夫	09131	浅野 達郎	10187	竹之内 正喜		

日本山岳会 ナムチャバルワ峰
 支援トレッキング隊のご案内
 期間 十月十日〜二十七日(18日間)
 費用 六七八、〇〇〇円
 旅行最小催行人数 十四名
 旅行取扱 中国登山協会
 (株)アドベンチャーロード
 ※詳細は、登山隊事務局(次頁)、またはアドベンチャーロード(☎〇三二五二六一一七〇七)へ。

二頁より続く

「丁国際会議に來日した国外著名登山家の歓迎費や保険料など」に多少の増加があったが、他はほぼ予算通りで、ナムチャ関係の助成金等の収入見合いの支出があり予算に対してややふくらんでいる型をとっているものの、これらを除くとほぼ予定通りということになる。当期支出合計は一億二〇二万六四九七円と極めて健全、安定化した決算となった。

正味財産増減計算書では期末正味財産合計額は二億四六一九万五七七四円、貸借対照表、財産目録その他も別掲の通りである。これらの数字は何れも公益法人の会計基準によるものである。

これに対し飯野亨監事から、平成三年度の収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表および財産目録は正確且つ妥当であり、なお、ナムチャ、山研など年にまたがる特別事業についても監査を行ったが、これらについても適正に運営が行われている旨監査報告が行われた。

次いで第二号議案、平成四年度事業計画案(別掲)および収支予算案(別表)については同じく小倉、大倉両常務理事より説明があった。

事業計画については山研改築、第二次ナムチャバルワ登山のほかは例年

通りの事業が行われるが、全国支部集会は福岡、自然保護全国大会は滋賀県朽木村で行われる。その他青年部でアムネマチンに登山隊を派遣、海外連絡委員会が崑崙山脈国際キャンプに公募して参加するほか図書管理委員会では全国の二万五千分の一の地図を逐次集めるなど例年でない事業も追加されている。

これに伴っての収支予算は、山研事業収入はゼロ、雑収入は低金利の見込みから一〇〇万円マイナスと見込んで五五〇七万円に置かれ、一方支出は会員名簿製作費、世界対応ビデオ購入費などを加えても五五〇三・五万円に押えられ、収支とも前年をかなり下回る規模に定められた。

第三号議案、平成四年度末除籍の件については対象四十九名。これには対象者リスト中、知った名前があれば極力会費納入を働きかけて欲しい旨、要望がなされた。また議事録署名人は石田要久、中川武両氏が指名された。

なお、議案審議に当たっては、年次晩餐会の会場について石田稔郎会員より要望がだされたが、小倉常務理事より事情説明があり本人もこれを了承した。

総会終了後は会場を十一階に移し中川武会員の司会により懇親会が行われた。乾杯の音頭は堀田弥一名譽会員、閉会の挨拶は吉沢一郎名譽会員、終了は午後五時。

平成三年度物故者氏名(敬称略) 早川種三(名)、谷口現吉(名)、菊池正蔵(永)、國分勸兵衛(永)、山田二郎(永)、小林重吉、ファン・ソペーニヤ、中村賢二、上原國男、安田耕馬、久保信一、酒井昭市、進藤波男、井上治郎、賀谷繁雄、松沢潤吉、吉田俊二、秋山幹夫、徳永芳雄、森茂八、中山俊夫、春川正生、高見悦子、二上純一、齊藤時雄、長谷川恒男、大西宏、尾形奈保子、米沢直治、水橋忠治、泉隆次郎、今井三男、宅間靖、冨塚清一、熊谷太郎、小林寛、宮入保徳、阿達憲、佐藤金一、早坂敬二郎

(写真・山口俊輔/文責・小倉厚)

第二十八回 観光週間(八月一日〜七日)の目的

- ① 観光道徳の高揚
- ② 観光地の美化

総務委員会

ナムチャバルワ第三信

五月十四日、登山委員会および実行委員会が開催され、第二回の北京会談の報告および本年度の登山概要について説明了承されました。また、登山隊員についても以下のメンバーが了承されました。登攀隊長 山本一夫(46)

'76ラムジュンヒマール登山頂 '84ガウリサンカール南峰登山頂 '88三国友好登山隊参加、隊員 三谷統一郎(36)

'78アンナプルナ南峰登山頂 '82ダウラギリ一峰登山頂 '84カンチェンジュンガ南峰く中央峰く主峰縦走 '85チヨオユールマタ登山頂、青田浩(34) '81アンナプルナ登山頂 '85クスムカングル登山頂 '86冬期プモリ登山頂 '88三国友好登山隊にカメラマンとして参加 '90アコンシ東峰登山頂 '88三国友好登山隊に参加



日中国交正常化20周年記念

'88シヤパンマ・チヨオユール登山頂 '89サガルマタ登山頂 '91ナムチャバルワ登山隊に参加・七四六〇峰に到達、佐藤正倫(28) '88三国友好登山隊に参加 '90ナンガバルワ登山頂 '90秋・ナムチャバルワ峰偵察隊に参加・六九〇〇峰に到達 '91プロードピーク登山頂、以上の件については同日開催された理事会においても了承されました。

登山委員会、実行委員会、理事会の承認事項については、十六日の通常総会の席上、山田会長より発表されました。五月三十日、第五回の登山隊会議が行なわれ、リストアップを進めて来た、食糧および雑具について寄贈依頼書の発送開始、および装備関係について見直し依頼を開始しました。

続いて日本山岳会ルームにおいて開催された高所登山委員会では、合同登山の経過報告および登山についての具体的検討を行ないました。梱包作業については品川の日通卓頭倉庫を借用、六月十五日より七月十日までの予定で行ないます。また今回のパッキングリストはパソコンに入力し、現地での荷上げ管理をスムーズに行うための一助とする予定です。なお支援トレッキング隊についての詳細は登山隊事務局、電話〇三―三二四九―七九一五へお問い合わせ下さい。

(重廣恒夫)

新支部長紹介

昨年度の総会で「支部設立ならびに運営に関する規定」が改訂され、支部長の任期等が明確化されたが、本年度は、次の四名の支部長が新たに就任されましたのでご紹介致します。

▼熊本支部長 本田誠也氏

会員番号五四二一番。奥野前支部長勇退の後を受けて支部総会で選出される。一九五〇年代には阿蘇檜尾岳北ルート、阿蘇高岳南面ルートの開拓に活躍された他、北アルプスの積雪期登山を含め、広く全国の山に足跡をのこす。最近では毎年のように、海外登山・トレッキングにでかけている。

熊本支部は創立三十五周年を迎え、中高齢の会員が増えているが、本年はカナディアン・ロッキーの登山を計画している。著書に『熊本の山』『日本の名山(阿蘇・九重と九州の名山)』がある。

▼福岡支部長 吉村健児氏

会員番号三一七三番。本会評議員でもある。権藤前支部長の後任として、本年四月、副支部長より選任される。故橋本三八氏らと八幡製鉄の山岳会として、古くから九州の山で活躍。最近では、世界各地の山を、毎年探訪している。

る。本年九月には、全国支部集会在、英彦山で開催されることもあり、支部組織の充実と他支部との交流を深めるべく意欲を燃やしている。

▼富山支部長 木戸繁良氏

会員番号五七九一番。若林前支部長の勇退の後を受けて就任。富山県立富山高校山岳部時代より、立山・剣を中心に広く活躍した他一九八三年には富山岳連ナンガバルワ登山隊の隊長として参加、自ら登山頂に成功。一九八八年にも、富山山想会隊を率いてスタルシャン・バルワットの登山にも成功している。行動派として知られる富山県山岳連盟では藤平正夫会長の下で、副会長を務めている。

高齢化しつつある支部の若返りと育成をはかり、行動する支部長として今後の活躍が期待される。

▼岩手支部長 中谷 充氏

会員番号七三三二番。本年五月に急逝された佐藤敏彦支部長の後任として支部長に選任される。

盛岡農林専門学校時代より、昆虫学に詳しく、昭和二十四年より三十九年間、高校山岳部の顧問教師として登山していた。岩手支部は大黒柱であった佐藤前支部長を失った当面は、支部内の新たな融和、結束をはかることに重点を置いて運営していきたいとのことである。著書に昆虫採集『岩手の蝶』

(共著) がある。

(Y・M)

HETによるヒマラヤ・コード

ヒマラヤで正しく行動するために

(ヒマラヤ・環境・トラストの行動規約)

魅力的な白い峰、貴重な動植物、そして古くから伝わる独自の文化。ヒマラヤの環境を守るため、ここを訪れる人は次の規約に従うことが求められます。

《自然に対するルール》

キャンプ地では。— 撤収の時には必ずそうじをし、ゴミを残さぬこと、あなたのとに、他の人がキャンプすることを忘れないで下さい。

森林をこわさないこと。— マキによるたき火はしないで下さい。もししてゐる人を見かけたら注意を。どうしてもマキで煮たきをする時は最少にとどめ、できる限り灯油や効率よい燃料装置のある宿泊所に泊って下さい。

ゴミ焼却は安全な場所です。— 乾いた紙類は広い安全な場所でもやして処理します。食物など腐って土にもどるものは土に埋めましょう。

プラスチックなど腐らないものは持ち帰るべきです。他の人が捨てたこのようなものも、目についたら拾

うことです。

水をきれいに。— 流れや泉の水を汚さないように、近くで洗剤を使うのはやめましょう。トイレの施設がない場合、用を足すのは水から三〇センチ以上離れていることを確かめてから。

あなたの落しものをきちんと埋めてくるのはもちろんのことです。

ガイドやポーターに。— 自然保護のためのこのような方法をあなたのガイドやポーターにも伝えて下さい。ゴミを近くの流れや川に捨てたりしないよう指導して下さい。

《人々の生活に対するルール》

写真を撮る時。— 人々のプライバシーを尊重するべきです。必ず許可を得ること。あなた自身、遠慮の気持ちを持つことが大切です。

聖なる場所を訪れたら。— あなたが目にするものに尊敬の気持ちを持つべきです。宗教関連のものに触ったり動かしたりしてはなりません。お寺を訪ねた時は靴を脱ぐのがエチケットです。

As a guest, respect local traditions, protect local cultures, maintain local pride.

When taking photographs, respect privacy - ask permission and use restraint.

Respect Holy places - preserve what you have come to see, never touch or remove religious objects. Shoes should be removed when visiting temples.

Refrain from giving money to children since it will encourage begging. A donation to a project, health centre or school is a more constructive way to help.

Respect for local etiquette earns you respect - loose, light weight clothes are preferable to revealing shorts, skimpy tops and tight fitting action wear. Hand holding or kissing in public are disapproved by local people.

Issued by
The Board of Trustees of the
HIMALAYAN ENVIRONMENT TRUST
(In conjunction with Tourism Concern)



THE HIMALAYAN CODE OF CONDUCT

By following these simple guidelines, you can help preserve the unique environment and ancient cultures of the Himalayas.

Protect the natural environment

Camp Site. Remember that another party will be using the same camp-site after you have vacated it. Therefore, leave the camp-site cleaner than you found it.

Limit Deforestation - make no open fires and discourage others from doing so on your behalf. Where water is heated by scarce firewood, use as little as possible. When possible choose accommodation that uses kerosene or fuel-efficient wooden stoves.

In a safe place burn dry paper & packets, bury other paper & biodegradable material including food. Carry out all non-biodegradable litter. If you come across other peoples' rubbish, remove their rubbish as well.

Keep local water clean and avoid using pollutants such as detergents in streams or springs. If no toilet facilities are available, make sure you are at least 30 metres away from water sources, and bury or cover wastes.

Plants should be left to flourish in their natural environment - taking cuttings, seeds and roots is illegal in many parts of the Himalayas.

Help your guides and porters to follow conservation measures. Do not allow the cooks or porters to throw garbage in the nearby stream or river.

The Himalayas may change you—please do not change them.

子供たちには。— お金をあげないで下さい。万一、物乞いが彼らの習慣になつてはたいへんです。もし彼等を応援したいのならそこで行われている地域プロジェクトか健康センター

また学校などへ寄付を。その方が効果的に子供たちをサポートできるはずです。現地の習慣・エチケットを大切に。— そこに住む人のエチケットに従うこ

(ヒマラヤ・コードの原文)

とがあなたのエチケツトになりま
す。ゆったりとした軽い服の方が、
肌を露出し、体の線をくっきり見せ
る服よりもエチケツトに出来ないま
す。人前で手をとったり、キスをす
るのはエチケツト違反です。



アンタークティック ウォーク南極探検隊より

拝啓 お元気にお過ごしのことと思
います。私も南極点探検隊はデンマー
クのコペンハーゲンを経由し、5/13
にグリーンランドのサンドロストーム
フィヨルドに到着いたしました。出発
前はひとかたならぬお世話にあずか

ナムチャバルワ峰登山
上高地山岳研究所改築

合同募金に協力しましょう！

り、誠にありがとうございました。こ
れから約一か月間、グリーンランド内
陸氷床でトレーニングです。七月上旬
の帰国迄日本を留守にいたしますがよ
ろしくお願い申し上げます。 敬具
一九九二・五・一四

JACには大変お世話になりました。
また、ご迷惑をおかけいたしまし
た。
隊長 吉川謙二
(編集部宛)

短歌 雨の磐梯山

大橋克也

ずぶ濡れが靴から膝へとほりくるな
にゆえ雨の峯わたりゆく
「水温は五度」と記しあり弘法の清水
濁れる雨の磐梯
忽ちに霧の消しゆく岩稜の残像追って
峯伝いゆく
一瞬に消えゆく影こそ目をば焼く濃霧
流るる爆裂火口
泥濘も最早や厭わず山下の露の傘
破れたるまま
(九一年七月)



図書 紹介

飛驒の山山 国境編

酒井昭市著

「…、つい先日、退院してきました。

この三年余の間に三回入院しようとは
夢にも思わぬことでした。いくらか
りとも山に登れ、少しは食べられるよ
うになった矢先の出来ごとで、思わず
目の先が真っ暗になりました。…、絶
食の続く日々の中で山も自分の命もあ
きらめました。…、これは、著者か
ら戴いた書状の一部である。

酒井さんは岐阜県下の中学校で三十
数年にわたって教鞭をとられたが、昭
和五十九年に定年まで三年をのこして
退職された。岐阜県の山のガイド紀行
をまとめた、というのが退職の際の
主な目的だった。それもつかの間のこ
と、退職された翌年に慢性膝炎で入院
し、手術を受けられた。以後、闘病の
かたわら体調をみて山に向い、セスナ
機による空撮、と本書の編集作業を進

められていた。が、平成三年三月二十
八日に岐阜県立病院で逝去された。
享年六十四歳。
著者は、初校の原稿を枕辺に置いた
まま逝かれてしまった。断腸の想いで
あったろう。本書はその後の作業を山
仲間が引き継いで上梓したものであ
る。

これで、姉妹編の『飛驒の山々 ヤ
ブ山編』(平成二年十一月刊)、および
前著『飛驒の山 美濃の山』(昭和六
十三年十月、山と溪谷社刊)と合わせ、
著者によって岐阜県の山の全域をか
バーしたことになる。著者が登山の対
象としてきた山、とりわけ飛驒高地、
美濃の山などは、これまであまり扱わ
れなかった山域である。本書では、そ
れらの山を著者独特の、余韻を残した
語りによって、山村風物誌をおりませ
ながら、実り豊かな山旅を語ってくれ
ている。資料性のたかい山書であるう。
構成は、積雪期蒲田川周辺の山、笠ヶ
岳東面穴毛谷、白山とその周辺の山、
積雪期石徹白周辺の山、阿寺山系の山
と峠、それに、恵那山周辺の山、の
各章からなる。

なお、著者は本会会員でもあった。
平成四年三月二十八日 ナカニシヤ
出版 B六判 三四九頁 二八〇〇
円 (安藤忠夫)

報告

秩父宮記念学術賞

授賞記念講演会開催さる

平成二年度秩父宮記念学術賞授賞となった、大井正一山の気象研究会々長の「登山に関する気象学の研究」の発表会が、平成四年五月八日(金)午後六時半から日本山岳会ルームにて開催された。

大井氏はスライドを用いて富士山にかかる笠雲やつるし雲の写真を示し、それら雲の発生機構についての研究を發表された。

$$S_c = \frac{g}{u^2} \frac{\alpha \theta}{\alpha Z} \frac{1}{u} \frac{\alpha^2 u}{\alpha Z^2} = \text{Scorer number}$$

この式の第一項は浮力に関するもので $\frac{\alpha \theta}{\alpha Z} < 0$ なら大気は安定で、笠雲などは安定成層のときに発生しやすいことを示している。第二項はシャープ不安定に関するもので、風速の鉛直分布の曲率を示し、曲率が上方に凹の場合負となる。すなわち風速が高さとともに直線的に増していれば0であり、増加率 $\frac{d^2 u}{dz^2}$ が下で急で、上で緩やならば負となる。すなわちそれに負がついているから0は正となる。これは西風の場合、風上に南アルプスなどがあって下層の風は弱まるが、上層の風は強いままのため波動は発生しやすくなる

ことを示している。

笠雲発生時の館野と浜松の高層資料からその S_c 分布を計算すると、丁度笠雲の現われている高度付近で S_c の正の値が大きくなくなって対応がいい。そして S_c の式の各項を見積ると第一項より第二項のシャープ項による影響が大きいようである。

同様に笠雲やつるし雲に関する写真が大井氏自身のもの他、山本(三)、湯山氏のものも紹介され、その発生時の S_c 分布も示された。

また富士山頂のはるか上空のみならず上層雲の雲がある状態を、大井氏はベルヌイ雲と名付けた。これは上層が風が強いため圏界面が下り、また下層の風は富士山という障害物のため風の通り道が狭められ、一層風が強められる。その結果富士山頂の真上の圏界面下に上昇流と波動を生じ、そこだけ巻雲を発生させるためであろう。

また旗雲や滝雲についても述べた。旗雲の規模の大きなものは、富士山の風下の下層雲も発生させ、いつまでも停滞し、雪を降らせることもある。滝雲は山の一方が濃密な雲の雲海で、この雲が山を越えてあふれ出すとき発生する。谷川連峰や北アルプスなどではよく目にするが南アルプスでは見かけるとは少ない。(奥山注、谷川岳の滝雲は関東地方が北東気流形で濃密で安

定な下層雲に包まれているようなときよく現われるが、南アルプスは南からの湿った気流が直接ぶつかるため雲の高度は高く大気も不安定なることが多いため現われにくいであろう。)

また山での気象による遭難の話もされた。とりあげたのは一九五五年の五竜岳の遭難と一九六〇年八ヶ岳の遭難である。前者は吹雪のため道をふみはずしての転落と思われるが、大井氏も別行動ながら同行していた。そして天気の崩れる前には南から前線北上を示す、厚い膜状の雲の接近が印象的であった。また八ヶ岳の方は台風がそれまで九州南方で停滞していたのに、その日急に本州南岸ぞいを北東進しだしたため、十月であるのに真冬並みの降雪となった。日帰りの軽装備だったからベテランといわれる人であったが遭難してしまった。近くに台風があるときは万全の注意をしないとけないと話を結ばれた。

出席者 中村純二、中村あや、遠藤泰孝、鈴木快信、鈴木裕代、鈴木敬吾、野口茂、石田要久、高橋詢、奥谷潤之輔、村上昭三、大塚博美、斉藤桂、徳久球雄、近藤雅是、春山政衛、石井恵美子、大森弘一郎、中村美津子、松丸秀夫、川善市、橋本行雄、荒井紀子、三沢二三、松村潤、黒沢亜規子、北野忠彦、林桂子、原謙一、木村カズミ、

大友裕美、鳥居亮、奥山巖(奥山 巖)

高柄山 さくらハイク

一〇九二七 沢井増夫

平成三年入会の新会員と以前からのJAC会員とのコミュニケーション山行が実施された。

四月十九日(日)JR中央線四方津駅前に総勢四十余名が集結、総務委員の林栄二氏をリーダーに中高年男女が陽春の若芽の樹木の間を賑やかに九時少し前に出発した。天気予報では午前中雨、午後晴れということであったが、山の上は風がややきつかったものの曇り時々晴と申し分なく、千足峠を経て高柄山山頂(七三三m)に十一時過ぎ着。相模川上流の桂川一帯を眺めながら、それぞれ持参のビール・日本酒を片手に弁当をパクついた。この日は、「お仲間、ご家族お誘いあわせて」ということもあって、筆者らが食事を終った頃、某ご夫妻がしんがりの祝迫重明氏に追いつてられながらやっと登頂、メダタシ、メダタシ。その直後一人の若者が自転車を担いで上って来たのには吃驚、最近ではマウンテンバイクとかマラソン登山とか風変わりな山行に出くわすことが多い。全員揃ったとこ

るで記念撮影と藤井総務担当理事からの挨拶があって正午過ぎ頂上を後に千足峠・新大地峠経由で下山。途中の休憩時参加者の自己紹介があったが、その中で「ナムチャと山研の寄付を頼む」との演説もあり、JACという会は仕事熱心な人達の集団であることが良く分った。(筆者は既に協力済み)最終ゴール寸前で急に降雨、折角持ってきた雨具が役立った。終り近くで良かった等はしゃぎながら午後二時半四方津駅で解散、五時間半の旅が終了した。

それにしても千足峠・高柄山の間が多少登山らしく感じた他は、全くラクチン、物足りない行程で「さくら山行」ならぬ「らくさ山行」ではあった。はれやかで楽しいこの人達と五月総会、福岡集會、年次晚餐會等での再會を期待して「さくら紀行」を終りたい。

三水会四月現地集會

西丹沢のブナ林と

残雪の富嶽を追う

大又沢・城ヶ尾峠・
菰釣山・高指山

三水会四月現地集會を四月二十五・六日の両日に行った。雨男が係となり天候が心配されたが参加者の多数は晴男晴女であり、五月晴の天気となった。八時三十分、九台のハイヤーに分乗

し、国道二四六号を丹沢湖めぐし快適に新緑の溪谷を進む。谷筋には黄金のヤマブキ、紫ツツジ、山桜が咲きみだれ参加者の気持ちをはり立てる。

白雪の富士が湖面に写る丹沢湖に至り、山道に入ると車窓からウグイスやツツドリの声がとびこんでくる。

最後の民家のある浅瀬に至り、平塚営林署管理の林道のゲートを開いても狭くなった峡谷の林道を蛇行して大又沢の地蔵平に入る。車の揃う間に大又沢一族の氏神である山神社と関東大震災で山津波に埋れた人々のために建られた地蔵堂に酒や菓子を供えた。

広い貯木場で勢揃いし、中先生の号令で準備体操をしてからバケモノ沢に入り、信玄平の尾根にとりつくが係の勘違いで急なケモノ道を登り尾根にとりつく。ゆるい尾根を登ると菰釣山と富士が左手に展開し、ブナの原生林が谷向いにせまってくる。信玄平に至り檜林やブナ大木の樹下で一息入れる。

ここから尾根を急登するとバケモノ沢流域と大界木・畦ヶ丸を結ぶ稜線に囲まれたブナ原生林帯に入る。芽ぶき前のブナに陽光がふりそそぎ林相は銀色にさえ見える。スミレ咲く日向道をつめるとそこは城ヶ尾峠である。道志側の山々や里は神奈川県側と異り、冬景色が強く残り冷風を吹き上げる。

昼食後、高齢者組はサガセ沢を下り、

早春の村里をゆっくり歩き、長又の民宿中村荘に到着し、風呂に入る。ブラシの如く稜線に続くブナ林を西に向った。パワー組は城ヶ尾を過ぎ、長い登りをつめて、一四〇〇に近しい菰釣山に至り、冷たい山風に追い立てられてブナの丸の尾根に入る。ブナ林の袖道拾って北に進み白井平につきだした前ノ岳一三〇〇に至り、白井平を下り、長又民宿に到着。

山里の桜桃花は盛りであるが期待していたアツモリ草は咲いていない。夕方、高田さんの挨拶と乾盃で開宴、酒量は前回並みであるが、論客多才、山峽の里にいつまでも続いた。それでも早朝集會、本格的な山歩きで早寝となる。

二十六日快晴、居間のコタツで早朝の酒宴があり、全員のエンジンの調子も快適なもの。八時朝食後、全員で記念撮影となる。九時のバスで山伏峠に至り、旧トンネル前で中先生の指導で体操を行い富士の野焼を眺めながら大棚の頭に向う。山中湖周辺は枯山水に近い風景が展開していた。白ザレのやせ尾根とブナ林が調和した快適な尾根歩きとなる。やがてカヤトの道となり、陽光が強くなる。白雪の富士はやわらかい山稜となり春の化粧姿に変わっている。

高指山で一時間半の昼食時間を与えられ、最後の乾盃の後は山頂懇親會や

狸寝入りをする人達で占拠された。参加者 樋口、武田、川上(進)、高田、荒木、吉武、小川、川上(光)、岡野、大野、新村、妹尾(幸)、妹尾(律)、林、菊地、岩堀、遠田(栄)、遠田(篤)、中、横溝、橋本、鳩谷、久保、金谷(修)、池田、尾身、片岡、内山、塚原、金谷(信)、大森、水村、河合、係：平沢、佐藤(茂之) (佐藤(芝明))

支部長選出について

岩手支部

四月二十八日付にてお知らせしておりました佐藤敏彦支部長逝去後の後任支部長の選出のため支部委員会を左記の通り行い、支部長を選出いたしましたので理事会のご承認を得たくお届け致します。

記

日本山岳会岩手支部 支部委員会
(招集者 総務委員 菊池修身・柳田房男)

日時 五月二十三日(土)午後二時より
場所 盛岡市紺屋町 盛岡市勤労福祉会館会議室

出席者 柳田房男、菊池修身、小野寺正英、中谷充、近藤有慶、松田和弘、関口宏、宮伸穂、立花幹雄、渡辺博厚、田鎖寿、委任 高橋俊紀、石村実、鹿

野松男、佐藤泰彦、藤岡智昭

議長に宮を選び、支部規定に則り委員会を開催することを確認し議事に入る。

一、経過報告

支部長逝去後の支部会員への通知から、支部長会議までの経過と支部長会議(代理出席佐藤泰彦)報告の内容を概略説明。

二、支部長の選出

選出する支部長の任期は前任者の残任期間とする(一九九三年三月まで)事を確かめ、

支部長 中谷 充

を出席者の全員一致により選出した。なお、副支部長 菊池修身 もあわせ選出した。

三、その他

・支部連絡先、事務担当者は先に届け た支部資料に記載の通りとする。

・故佐藤敏彦氏のお別れ会は紀子夫人の招待で行われ、支部の関与は不要という故人の遺志により支部からの助力は同夫人からの要請によるもののみとする。

・先に山岳編集委員南川氏より執筆依頼のあった佐藤敏彦氏追悼文(山岳八十七年掲載予定)は、南会津山の会を通じて同氏と深いつながりを持たれかねか平の山々の山行も数多くご一緒された望月達夫氏にお願いす

る事とした。

・支部だよりの原稿(六月三十日締切)は中谷が執筆する。などを話し合い終了。

一九九二年五月二十五日

(社)日本山岳会

会長 山田二郎殿

・会務報告

五月定例理事会

五月十四日(木)十八時
場所 本会会議室

出席者 山田会長、松田副会長、小倉

(茂)、大森、大倉、神崎、重廣、小倉(厚)、穴田、入澤、山口、石橋、関口、藤井、村共、南川、伊丹各理事、飯野、中島西監事、齋藤、西村、湯浅、橋本、各常任評議員

(委任) 山本理事

◇議事

〔審議・承認事項〕

一、ナムチャバルワ登山の件

理事会に先立ち本日午後四〜六時の間、本会会議室においてナムチャバルワ登山委員会およびナムチャバルワ山実行委員会の会議を合同で開催、北京会議の報告ならびに登山隊員候補者につき審議が行われ承認されたので、本理事会でも承認願いたい旨担当の重廣理事より説明があり夫々承認した。

(1)北京会議での協議決定事項についての承認

の承認

日本側は斎藤惇生副総隊長と重廣が出席。中国登山協会からは王鳳桐副主席、王振華技術部長、張江援マネージャー、李豪杰通訳、チベット登山協会からは洛桑達瓦主席、高謀興秘書長、桑珠登山隊長が出席した。決定事項は以下の通りである。

1. 隊の構成(JAC十二、中国四十
一、報道十四、計六十九名)

2. 行動概要

九月二日・日本出発、六日・ラサ

入り、十四日・ベースキャンプ開

十月十五日・第一次登頂、十七日

・第二次登頂、三十日・北京帰着

3. 装備、食糧については日本側案に

中国隊員の意見を取り入れ、ライ

ンアップを確定した。

4. 総指揮部の権限について

① 総指揮部の構成は、総隊長二名、

総隊長補佐一名、副総隊長二名の

五名で構成。

② 総指揮部の権限について

登山中は隊長判断によって行動す

る。

③ 登山隊の依頼があれば、計画の變更について協議する。日中双方の突発事項の発生に速やかに対応する。

(2) 登山隊員選考についての承認

登攀隊長(1)、登攀隊員(4)、マネージャー

(1)、医師(1)、気象担当者(1)、の八名のうち気象担当隊員を除く他のメンバーは既に内定し、これら隊員候補者を中心として準備を進めている。本日の登山委員会で検討し決定したので本日の理事会でも承認願いたい旨の説明があり、本件承認する。

登攀隊長・山本一夫、隊員・三谷統一

郎、青田浩、山本篤、佐藤正倫

二、特別プロジェクト会計の会計監査

の件

事業年度をまたがる特別のプロジェクト(山研およびナムチャバルワ登山の事業)については通常会計とは分けて管理しているが、本件についても去

る四月二十一日別途監査を行った結果、正確且つ適正に処理されている旨

の報告が飯野監事よりあり、本件了承

する。

〔報告事項〕

〔報告事項〕

次代に残そう美しい山と溪

一、岩手支部長・佐藤敏彦氏逝去の件
四月二十三日に逝去されました。六月六日「佐藤敏彦氏のお別れ会」が盛岡で開催、本会を代表して山田会長が出席の予定。

二、上高地山岳研究所の改築について
四月二十六日藤平副会長以下山岳会関係二十名、地元関係者二十名で地鎮祭を行った。

三、合同募金について(石橋)

五月十一日現在 会員募金一一二五名 二〇、四八三、一二九円、企業募金(申し込みを含め) 四四、六七二、〇〇〇円

四、平成四年度予算執行について(大倉)

五、指導者賠償責任保険について(入澤)

本部関係八十八名、支部関係六十六名、四月二十六日に契約した。

六、事務局

児玉氏に替わって後任の宮澤美緒子さんを紹介。

〔委員会報告〕

青年部 四月二十二日早坂前理事の捜索会議、四月二十八日五月五日アムネマチン隊穂高岳合宿、五月七日定例委員会、六月十三日十四日谷川岳合宿実施・学生部と共催。

学生部 五月十九日リーダー討論会

テーマ「大学山岳部と学生部について」

て、※連休中の事故として五月五日朝剣岳八ツ峰五峰付近にて雪崩のため東大スキー山岳部の三年久保勝也君が遭難死。

資料委員会 大町山岳博物館「ピッケル等十点」、松本アルプス山岳館「リュックサック等十四点」、スイスアルプス博物館「アイガー東山稜特集・新聞一点」委託品発送業務を行った。

四月十三日十七日ウエストン研究のため来日のハミルトン女史(英国)の対応。

フィルム・ビデオ委員会 ①四月二十一日アルパイン・フォト・ビデオクラブを発足した。②談話室のテレビの更新、全世界対応POUバルビデオ購入。

③「マナスルに立つ」を山岳映画サロンに貸し出す。(山岳映画サロン主催によるチャリティ山岳映画会のため収益は全額ユニセフに寄付する)

科学研究委員会 マッキンリー気象観測隊は六月十日出発予定。

自然保護委員会 五月二十三、二十四日自然保護全国大会 場所・朝日の森。

海外連絡委員会 青海省登山協会主催の崑崙山脈国際キャンプに参加の方向総務委員会 四月十九日さくらハイクを参加者三十七名で行った。

集委員会 四月二十二日地学講演会

於ルーム 講師小崎尚氏

入会希望者阿部敬子他二十四名(内

復活一名)の入会を承認する。

支部長会議

五月十六日(土)十時~十三時
場所 コーブル会議室

出席者 山田会長、松田副会長、小倉(茂)、大倉、重廣、神崎各常務理事、入澤、石橋、藤井、村井、南川各理事、飯野、中島両監事、支部長 北海道・小須田、岩手・佐藤代、秋田・岡田、山形・大橋、宮城・柴崎代、福島・中嶋、越後・高橋代、信濃・赤羽、山梨・岩間代、静岡・安間、東海・鈴木代、岐阜・松井、京都・斎藤、富山・木戸、石川・欠席、福井・関代、関西・阿部、山陰・篠原代、福岡・吉村、東九州・梅木、熊本・本田、宮崎・魚本ほか総務委員

◇議事

一、本部報告

(1)岩手支部長 佐藤敏彦氏の逝去(四・二三)に関する件

(2)ナムチャバルワ峰登山について

(3)上高地山岳研究所改築の進捗状況について

(4)合同募金の状況について

(5)中年登山対策全国大会(二・二二)について

(6)指導者賠償責任保険について

二、会の行事について

(1)全国支部懇談会(十月三十一日、十一月一日)

福岡支部・英彦山について

(2)年次晚餐会(十二月五日)について

(3)自然保護全国大会 五月二十三、二十四日

(4)全国女性懇談会 八月二十九、三十日

(5)木暮祭 五月十六日

(6)ウエストン祭 六月七日

(7)宮崎ウエストン祭 十一月三日

三、国際関連行事

(1)崑崙山脈国際キャンプ

(2)H A T Jについて

(3)U I A A(国際山岳連盟)について

四、支部報告

五、提案事項および意見交換

(1)支部所属会員の会費値上げについて

六、その他



(5月)

7日 青年部、学生部

8日 科学研究委員会・大井正一氏「山雲の機構と分類」講演会

9日 自然保護委員会、土曜会

11日 総務委員会

12日 海外委員会、自然保護委員会、アルパインフォトクラブ

13日 集委員会

14日 理事会、ナムチャバルワ峰登山

合同委員会

15日 アルパインスキークラブ

16日 平成四年度総会、支部長会議
(コープビル)

19日 フィルム委員会、山岳研究所運
営委員会、学生部

20日 三水会

21日 科学研究委員会、女性懇談会委
員会

22日 図書委員会

25日 資料委員会、総務委員会、アル
パインスキークラブ

27日 集会委員会、図書管理委員会

28日 アルパインフォトビデオクラブ

30日 高所登山委員会
5月来室者463名

.....
● 会員異動
..... 5月

会員異動 5月

物故
宮本貴文 (四七五三) 4・14
田中栄蔵 (二一五三) 5・5

退会
本庄 眞 (一〇五三二)
森本吉春 (一〇三一〇)

山研・ナムチャ合同募金応募状況

(六月九日現在)

(二十口) 梅木秀徳、(十口) 太田晃介、
西孝子、市川義輝、(六口) 祝迫重明、

中條昌子、入澤郁夫、泉尾忠志、塩津
正英、(四口) 上条敏昭、林田正幹、村
川八重子、鼎治紀、金子誠吾、平井一
正、楠田亮二、(二口) 安間一勇、佐藤
登代子、宮澤美緒子、エーデルワイス
クラブ、吉沢一郎、橋爪幸達、滝澤ち
よ子、百瀬一茂、本田卯太郎、宮坂登、
畠中六左エ門、長塩憲司、山口斌、中
西豊和、小柳清治、佐藤英夫、大平元
次、吉田彌、深田泰三、渡辺洋子、竹
内堯、土井高夫、山本誠治、林豊敏、(一
口) 染谷美佐子、福永次男、本多彦一、
野村芳雄、鈴木秀雄

(累計 一千七百七十名、四千二百四十
三・六口、二千二百二十八万八千二百二十
九円)



この電話で
もお知らせ
しています

●「H・C・サリンさん」を支援
する会」よりお願い

本会名誉会員、インド登山財団 (I
MF) の H・C・サリンさんが、イ
ンド脊椎障害者センター (ISIC)
の会長に就任され、ライフワークとし

てこの仕事に取り組んでいらっしゃる
ます。

ISICは、一九六五年、印パ紛争
によって脊椎損傷を受けたエブレ
ストのサミッター、H・P・S・アル
ワリアさんと、その治療に尽力された
サリンさんが当時のインディラ・ガ
ンジー首相に提案、現在建設中のイン
ド国立脊椎障害者センターです。

サリンさんは一九六六年以降IM
F総裁としてインド・ヒマラヤの登山
に深くかかわってこられ、当会でも合
同登山はもちろん、数多くの登山隊が
暖かく迎え入れていただいています。
お世話になった方々、有志の方に広く
呼びかけて私たちの気持をお伝えした
いと思ひ有志で募金委員会を発足いた
しました。ご協力いただければ幸いで
ございます。

募金目標額 三百万円

一口 五千元以上

振込先 サリンさんを支援する会
(加入者負担振込用紙を左記にご請
求下さい。)

穴田雪江

☎〇三三九二五二五五三三

山口節子

☎〇四三二二四一一二九〇六

△ △ △

●探索山行の予告

行先 吾妻耶山・大峰山

期日 十月十七日(土)〜十八日(日)

本年度の探索山行は「吾妻耶・谷川
岳の地形と地質」をテーマに行います。
詳細は八月号の会報『山』でお知らせ
します。 科学研究委員会

●マップモニターを募集

国土地理院では、第Ⅲ期マップモニ
ターを募集します。あなたも応募して
みませんか。

マップモニターとは、国土地理院が
発行している「二万五千分の一地形図」
に対する意見および地図の内容につい
ての情報をボランティアとして寄せて下
— 以下十九頁へ —



— 十七頁より —
さる方です。

応募資格は、地形図に関する意見・情報の提供を行う意志のある高校生以上の方で、性別は問いません。期日は原則として一年間で、報酬はありません。希望される方(団体も可)は、住所、氏名(団体の場合は団体名と代表者名)、年齢、電話番号、勤務先(在学・学校名)、二万五千分の一地形図の主な利用目的、マップモニターを希望する理由および地域(地形図の図名、市町村名等具体的に)を記入し、ハガキまたは封書で八月末日までに左記へ申し込み下さい。

応募者が多い場合(三百名以上)

は、抽選により決定し、その結果は十月はじめに本人(団体)への委嘱状の発送をもって通知されます。なお、この制度について詳しく知りたい方は、左記までお問い合わせください。
問い合わせ先 〒305茨城県つくば市北郷一番 国土地理院 測図部 管理課 審査係 ☎〇二九八―六四―一一一(内線五二七) または、最寄りの地方測量部

訂正 五月号(五六四)七頁三段目「四句」の三句目の「稚子たつと…」は「鳩子たつと…」が、同十頁自然保護随想欄中終りから六行目、「旅行者のトップ」は「旅行社のトップ」がそれぞれ正しいので訂正致します。

平成四年七月二十日発行

102 東京都千代田区四番町五―四

サンビュウハイツ四番町

発行所 社団法人 日本山岳会

発行者 山田二郎

編集代表 小倉厚

電話東京(326) 四四三三

振替口座 東京三―四八二九番

東京都港区赤坂一―三一六

赤坂グレースビル

印刷所 株式会社 技報堂